

仲間と目指す金メダル

朗読者 フラッシュ嶋田

5

山口県出身で、現在は福岡を拠点に練習を続けているブラインドランナーの道下美里さん。2016年、リオデジャネイロパラリンピック日本代表として出場したブラインドマラソンでは、見事銀メダルに輝きました。「2020年の東京こそ金メダルを！」と、日々トレーニングの毎日です。

10

道下さんはブラインドマラソンをチーム戦だと考えています。視力のほとんどを失ったランナーは、ひとりで走ることができません。そこで、伴走者がサポート役として一緒に走ることが認められているのです。ランナーと伴走者を繋ぐのは“きずな”と呼ばれるロープです。共に呼吸を合わせながら、ランナーが安心して走ることができるよう、カーブや坂道などの情報を的確に伝えなければなりません。ランナー以上の走力、ランナーの目となる判断力、そして精神的な支えの役目も負う大切な存在です。

20

道下さんの周りには、支えてくれる仲間がたくさんいます。伴走をはじめ、練習のサポートや応援してくれる人たちで結成した「チーム道下」や、さまざまな支援を続ける所属会社などが道下さんの挑戦をバックアップしています。

そんな道下さんたちの努力は、確実に成果を挙げています。2017年、地元・山口県で開催された大会で、2時間56分14秒という世界新記録を樹立したのです。山口県で走る時は、いつも以上に沿道から大きな声援がもらえると云います。仲間のサポートと地元の声援が、道下さんにとって大きなパワーとなっているのです。

たとえ障がいがあっても周りの支えがあれば、大きな力を発揮できることを教えてくれました。不自由な部分をサポートする体制や、周囲の協力・理解があることで、障がいのある人の活躍をより一層後押しすることができます。障がいの有無に関わらず、人格と個性を尊重し、支え合い、多様性を認め合う共生社会の実現に向けて自分には何ができるのか、一度考えてみませんか。